

平成25年度理科で遊ぼう会の事業報告書（案）

総括と活動一覧

（事業内容）

相模原市との協働事業、理科実験支援事業、出前授業（担当課；学校教育課）と寺子屋（担当課；こども施設課）に替わって、市民ファンドゆめの芽の支援を受けた「こども達の自主精神を育む理科実験支援事業」を開始した。

この事業では前年度まで協働事業の枠外にあった事業の大部分もこの事業に加えて実施した。

- 1) 小学校での出前授業は清新小学校（6年生 木炭電池）、小山小学校（5年生 二極モーター作成、6年生 木炭電池）、藤野北小学校（4年生 ヘロンの噴水、5年生 二極モーター作成、6年生 木炭電池）を行った。実施クラス数は延べ15クラスで前年度の協働事業最終年度の9クラスを上回った。
 - 2) 学校におけるクラブ活動的な事業として上溝中学校（地域ふれあいの集い：モーター）、小山小学校（サマースクール：ヘロンの噴水とビタミンCの滴定）、南大野小学校（カルチャースクール：種モデルグライダーと折り紙）、上鶴間小学校放課後子ども教室（キツツキ遊び）に参加した。対象としたクラスは合計8クラスとなった。
 - 3) こどもセンターでの理科実験として、低学年の児童に対して全部で7か所で、キツツキの生態を動画で見せた後、キツツキの模型をストローと輪ゴムと紙で作る授業や、バルサ紙飛行機を作って飛ばし、翼の役割を考える授業を行った。
 - 4) 環境情報センター（土の生き物たちの世界をのぞいてみよう）、城山公民館（ポンポン船を作って動かす）、星ヶ丘公民館（作って飛ばそうゴム動力ヘリコプター）を実施した。
- 以上の授業において最も留意した点は、子供たちに観察と考察、そして自分の言葉で積極的に発言をするよう促すことであった。

ゆめの芽以外の事業は以下の通りでした。

- ・市民活動サポートセンター主催のボランティア・チャレンジスクール
中学高校生の受け入れを1回行い、教材づくりの協力をしてもらった。
- ・科学技術館で行われた、青少年のための科学の祭典 全国大会に7月27、28日の両日に参加し、種モデルの舞う種、飛ぶ種の出店。全国レベルへの参加は国立科学博物館でのモーター授業以来2度目となる。
- ・大野北公民館、陽光台公民館に於いて、子供祭りの支援事業に参加した。特に陽光台公民館では、おもちゃ医師の会との共催という形を取った。
- ・サポセン主催のイオンフリースペースにおけるNPO見本市に参加し、小さなこども達を対象にアルソミトラモデルグライダーのデモンストレーション。

(会の運営)

平成 25 年度第一回役員会

日時 平成 25 年 6 月 12 日 (水) 午後 2 時 30 分—午後 4 時 30 分

場所 市民活動サポートセンター オープンスペース

出席 甲斐田、中山、武藤、豊田、田中

委任状 南

欠席 矢野

1) 代表、副代表の選任

代表 田中、 副代表 甲斐田

2) 会計の選任 山崎徳嘉氏

お金の支払い振込も行う。

会員から山崎氏への領収書の受け渡し；

甲斐田又は田中が取りまとめ山崎氏へ渡す。

3) 運営委員の選任

甲斐田、中山、武藤、豊田、田中

3 年間の授業の内容等を振り返り、この時点で授業内容

(ppt ファイル、授業進行のあり方など) に関して定時作業会などで
全員で再検討をすることとした。

報告事項 6 月 12 日現在の授業申し込み状況の報告
以上。

平成 25 年度第二回役員会

日時 平成 26 年 4 月 4 日 (金) 午後 2 時 30 分—午後 4 時 10 分

場所 市民活動サポートセンター オープンスペース

出席 矢野、甲斐田、中山、武藤、豊田、田中

欠席 南

1) 平成 25 年度事業及び会計報告を検討 監査に出すことを了承

2) 平成 26 年度事業計画及び予算の了承

3) 平成 26 年度総会を 4 月 26 日に環境情報センターで 13 : 30 より行うこととする。

4) Yahoo Group が終了するに伴い、ML をサイボウズとするか Google Group にするかというところまで絞ったが、どちらにするかを関連して調べていた役員間で相談して決めることにした。

定例作業会；ほぼ月 2 回実施され、そこで会員間の意思疎通が図られたこともあって、特に運営委員会も行われる必要はなかった。作業会で役員会で決めた、ppt ファイルの再検討、授業内容の再検討が行われた。

活発な議論がなされたことはとても良いことであったと思う。

教材の生産管理、開発は大変スムーズに遂行された。

運営委員会；改まって会議は開けなかったが、以下の 2 件についてメールでの意見交換を行

った

10月14日 ゆめの芽応募書類の点検

1月10-11日 次年度実施希望先との連絡に関する意見交換

5月中旬 代表と副代表との意見交換；小学校へ実施可能プログラム送付、並びに小冊子送付先、添付手紙に着いて。

小学校児童からの感想文抜粋小冊子

前年度作成分に加え、簡易版（ホッチキス中綴じ）40部を作成し、作成総数は上装丁（糸綴じ）10部、簡易版（ホッチキス中綴じ）110部であった。

会員、賛助会員、学校教育課、協働事業推進課（協働事業結果報告会会用）、過去に授業実施した小学校、実施可能性が高い小学校、ゆめの芽ファンド審査委員などに配布。現在、糸綴じ版7部、簡易版1部が残っている。会の活動にとって、配布の効果があったと思うが、実質的な効果が明確に表れているようには見えない。

インターネット上のホームページ新装；

<http://tanuq.m37.coreserver.jp/wp35/>

を作成（賛助会員 水田氏）；過去に作った理科入口からの情報、旧ホームページにも到達できるようになっている。

平成26年度市民・行政協働運営型市民ファンド「ゆめの芽」ステップアップコースに応募

- ・応募事業名 こども達の自主精神を育む理科実験支援事業
- ・平成25年12月1日 公開プレゼンテーション 37万円の予算請求
- ・平成25年12月17日 採択通知受領
- ・ステップアップコース 決定額20万円、採択12件中8位。
- ・「保護者や公民館と連携するなど受益者負担を原則に事業の展開を検討してください。」我々のやっていることの意味を理解してもらうのはなかなかむづかしいと思いました。（ゆめの芽事業報告のp3今後の課題1）に触れました。）

懸案事項：

生産管理、作成した教材の管理、開発面がスムーズであったのに反して、事務面の運営組織はうまく出来なかった。

- 1) 授業希望先との交渉、授業担当者の募集と配置という事務局の役割は代表と運営委員の一人とで対応していたが、交代した方がいいとの希望があったので、探したが応じてくださる方もなく、結局代表のみで対応した。
- 2) 前年度会計を担ってくださっていた方が、諸事情により賛助会員に立場を変えられたのに伴い、会計担当者を決めねばならなかった。二人立候補してくさる方があったが、会員と接する機会が少ない方々で、領収書とお金のやり取り、記帳を一元管理することが難しく、結局好ましいことではなかったが、代表が会計をかねた。

このように一人が多くのことを抱え込むと、どうしても事業が縮みこんでしまう。新年度の大きな課題である。

(会員の異動、実施授業テーマ)

平成24年度終了時に正会員は19名であったが、1人が賛助会員に転じられ、年度内に新たに加わった方5名で、終了時には23名である。賛助会員は6名であった。協力会員には新たに一人加わった。また、賛助会員、協力会員のなかには、授業や教材作りに積極的に参加くださる方もあった。

授業テーマの開発改良も活発に行われた。

モーター、木炭電池、ヘロンの噴水に関しては更に改良がくわえられた。木炭電池のうちの電気分解型の電池をどうとらえて指導するかという問題が残っている。

新たに購入した液晶プロジェクターを用いることによって、子供たちの集中度が更に向上した。紙の節約+アルファの効果があった。教材としてのpptファイルの改良も重要であった。

pptファイルの作成にあって、議論が重ねられたことは意味深いことであった。

新たにキツツキ遊びが子どもセンターの行事に多く使われた。キツツキの動画の利用は好評であった。新たにゴム動力ヘリコプターが採用され、星ヶ丘公民館でテスト的に実施した。

学年によって、指導の仕方を変えると広い年齢対象の教材として用いることが出来る。